

東日本大震災復興支援
第67回国民体育大会 バasketボール競技

MATCH No. 2M3

開催場所: 飛騨高山ビッグアリーナ
試合区分: 少年男子決勝
開催期日: 2012年10月2日 (火)
開始時間: 14:30

主審: 平 育雄
副審: 川端 孝博・大谷 英紀



Team A	●	14 -1st- 21 17 -2nd- 16 8 -3rd- 21 21 -4th- 26	○	Team B
長野	60	84		京都

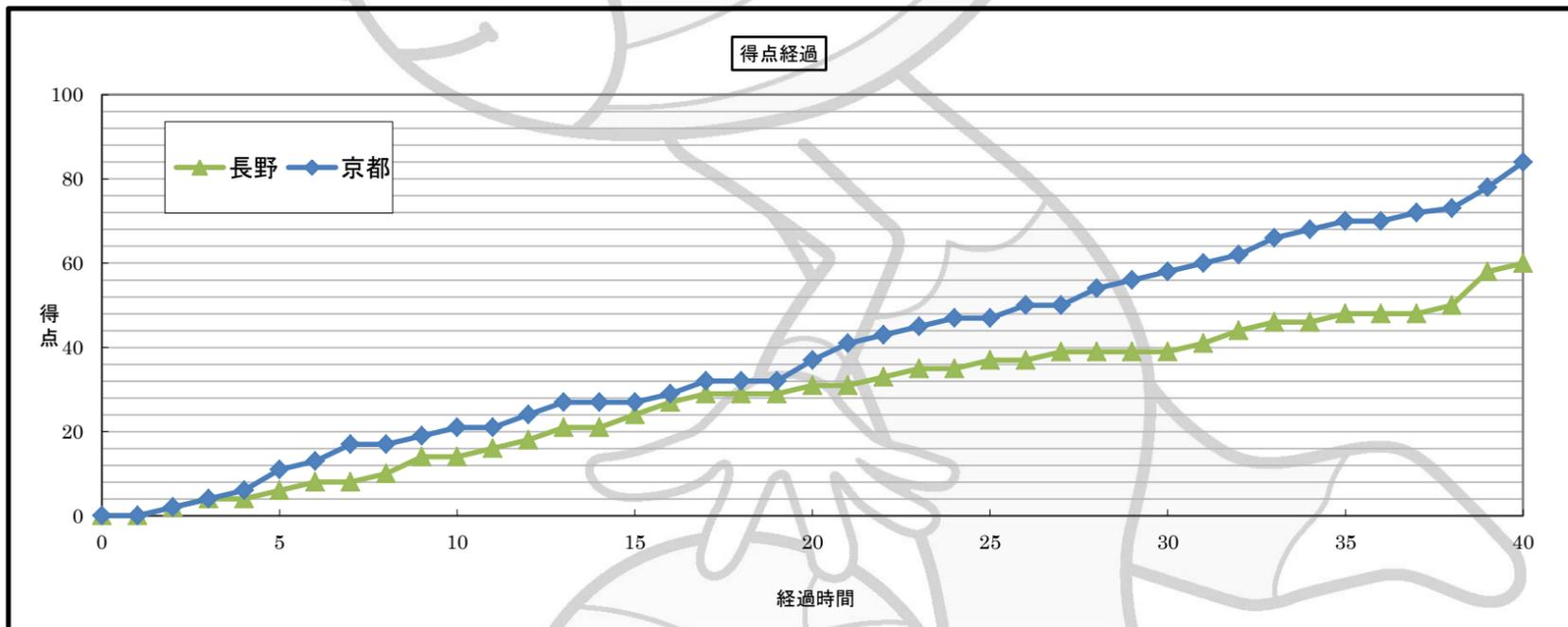
TEAM A		長野							
No.	S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F	R	A
4	*	吉村 大河(C)	10	1	3	1	3	3	3
5	*	三ツ井 利也	12	0	5	2	2	10	1
6		吉田 泰隆	0	0	0	0	1	2	0
7	*	花井 大悟	9	1	3	0	3	1	1
8		坂本 大悟	2	0	1	0	0	2	0
9		箱山 伶央	0	0	0	0	0	0	0
10		臼井 拓哉	2	0	1	0	0	0	1
11	*	森 和哉	23	2	8	1	2	7	0
12		井上 諒汰	2	0	1	0	0	0	0
13		宮尾 和輝	-	-	-	-	-	-	-
14		葛西 汰一	-	-	-	-	-	-	-
15	*	鶴田 美勇士	0	0	0	0	5	5	0
Coach		入野 貴幸					0		
TOTAL			60	4	22	4	16	30	6

TEAM B		京都							
No.	S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F	R	A
4	*	河合 祥樹(C)	18	2	3	6	1	6	1
5		伊藤 達哉	7	1	2	0	2	2	1
6	*	仁平 拓海	6	0	3	0	0	9	1
7		寺部 亮佑	14	0	5	4	0	11	2
8	*	宮脇 隼人	5	0	2	1	0	5	0
9	*	伊藤 諄哉	10	1	2	3	2	2	0
10		西戸 良	9	1	2	2	0	5	2
11		新城 隆平	4	0	2	0	2	2	1
12		中西 佑介	2	0	0	2	0	5	0
13	*	森井 健太	9	0	4	1	1	5	4
14		渡部 裕地	0	0	0	0	2	1	0
15		菅 祐史	0	0	0	0	1	0	0
Coach		作本 信夫雄					0		
TOTAL			84	5	25	19	11	53	12

Timeout (経過時間)	1Q・2Q	3Q・4Q	OT1	OT2
	06:06 19:01	26:32 31:36 36:12	-	-

Timeout (経過時間)	1Q・2Q	3Q・4Q	OT1	OT2
	17:22 -	34:07 - -	-	-

*:スターター (C):キャプテン PTS:ポイント 3P:3ポイントシュート 2P:2ポイントシュート FT:フリースロー F:ファウル R:リバウンド A:アシスト



両チームマンツーマンでスタート。共に激しいディフェンスで相手にオフェンスのリズムを与えない。立ち上がりはロースコアの試合展開。試合が動いたのは1Q中盤、京都#4の3P、#7のリバウンドシュートが立て続けに決まり6-15とリードする。対する長野はディフェンスを2-3ゾーンに切り替え、ポイントガード#4の多彩なパスワークから#8のシュート、#7のドライブなどで応戦する。1Qは14-21と京都がリードを奪う。

2Q長野はディフェンスリバウンドを頑張り、#11、#4の3Pや#10がスティールからの得点などもあり、2Q残り4分で27-29の1ゴール差まで詰める。京都は#7のゴール下、#4の3Pで簡単に流れを渡さない。2Q31-37で京都が6点をリードして折り返す。

3Q京都は立ち上がりから、#13のドライブ、#9、#4のシュートが決まり、一気に10点差をつける。長野は#5、#15のインサイドからの攻めを試みるが、思うようにシュートが決まらず、#11がジャンプシュート2本を決めるが、攻撃の流れをつかみ切れない。京都は#9、#13の3Pが要所で決まり、39-58と試合のリズムを大きく引き寄せる。

4Q長野はディフェンスをオールコートプレスに切り替え、激しいプレッシャーをかける。長野は#11のインターセプトからの速攻、#4のドライブ、#5のインサイドなど持ち味がでる場面も見られるが、京都はインサイド、アウトサイドとバランスよく得点をあげ、ディフェンスに的を絞らせない。4Q開始3分後には46-68と20点差をつけ一気に試合を決定づける。京都は最後にはスタメンをベンチにさげる余裕を見せ、60-84で優勝した。点差はついたものの両チームの最後までリングに向かう姿勢に会場から大きな声援が飛んだ。

記載責任者 早野 宏樹 (所属) 岐阜県バスケットボール協会